

INFLUENZA QUESTION & ANSWER

迅速診断で陰性の場合，NA 阻害薬を 使っても保険請求できますか。

岩城紀男

日本臨床内科医会インフルエンザ研究班顧問

岩城内科医院院長

ノイラミニダーゼ (NA) 阻害薬の保険適応は A 型または B 型インフルエンザウイルス感染症となっていますが、発症から 48 時間以内に投与する必要があります。一方、インフルエンザ感染症の診断は、従来から用いられている臨床症状 (突然の発症、38℃ 以上の発熱、上気道炎・呼吸器症状、全身症状) だけでは、高齢者など典

型症状を呈さない場合もあり、十分とはいえません。現在、日常診療で用いられている迅速診断キットが最も有用な診断方法であり、これが陽性であればほぼ間違いなくインフルエンザといえます。

問題は迅速診断キット陰性の場合ですが、発症早期の場合ウイルスの排泄量が少なく、陽性になるまでには数

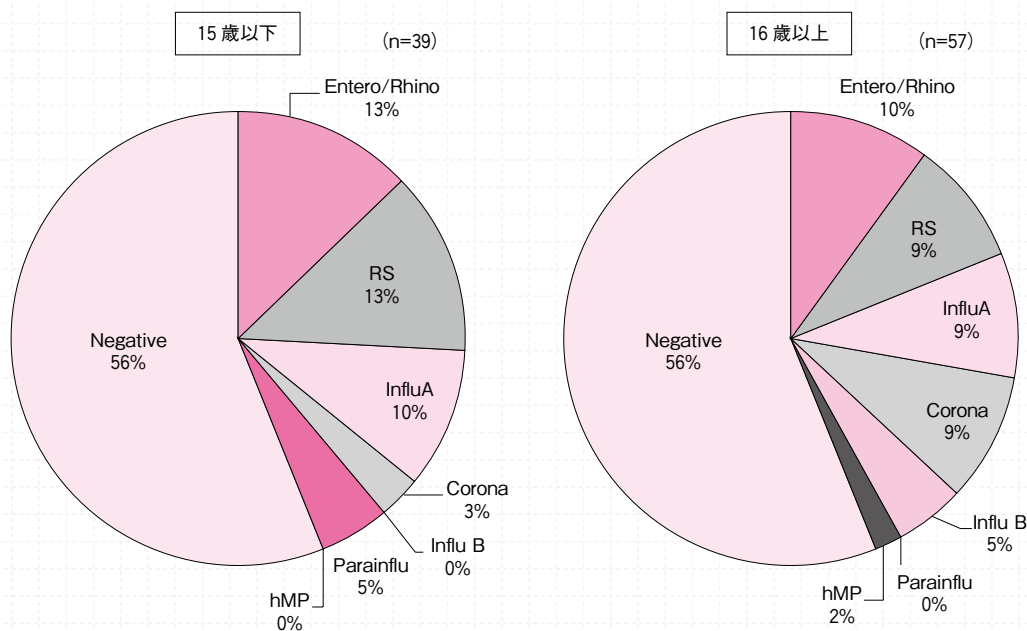


図1 インフルエンザ迅速診断キット陰性例におけるウイルス遺伝子検出の成績

2014/2015 シーズンに迅速診断キット陰性例について、複数の呼吸器感染ウイルスを同時に検出できる遺伝子検出キット (Luminex xTAG™ RVP FAST v2 RUO) を用いた成績では、インフルエンザ以外にも RS などさまざまなウイルスが検出されている。

(日本臨床内科医会インフルエンザ研究班 編、インフルエンザ診療マニュアル 2016-2017 年シーズン版 (第 11 版)、東京：日本臨床内科医会；2016 より引用)

Key Words ▶ 迅速診断キット陰性 インフルエンザの診断 迅速診断キットの再検査 保険請求